

株式会社クライン DX戦略

2025年6月23日取締役会承認

株式会社クライン

代表取締役社長 荒井 信喜

DX取組宣言



株式会社クラインは、2003年の創業以来、金属加工事業に取り組んでまいりました。

アルミ・ステンレス・チタン・マグネシウム・ニッケル・銅・鉄など工業製品に使用される金属は多数あります。私たちの仕事は、この個性あふれる金属素材の一つひとつを慈しみ、役立つもの、価値あるものに進化させることです。これまで、多くのお客様のニーズに対して、高精度のマシニングセンター、NC旋盤、研削盤、ワイヤーカット、各種測定器など充実の設備で対応してきました。現在では、東京都青梅市と岩手県遠野市に拠点を置き工場の自動化や省人化も積極的に進め、金属加工業界では高いレベルの生産性を実現するに至っております。

最近では、お客様の業種が広がり少量多品種の金属加工が増加傾向にあるため、高精度マシンであっても製品が変わるたびに適切なプログラム、刃物、治具を都度入れ替えする必要があります。この段取り替え工程においては熟練技術者のノウハウや感覚に頼る部分が大きく、生産性の向上を阻む最大のボトルネックとなってきました。さらに、原材料やエネルギーの高騰、環境配慮の必要性などこれまで以上に考慮すべき課題も増え続けております。

このような状況の中、弊社ではこれまで推進してきた工場の自動化、省人化及びデジタル人材の育成を更に進め、加工技術のノウハウや手順、段取りを見える化し、誰もが完成度の高い加工ができる変革を行い、お客様の真なるニーズに対応できる「最強のモノづくり企業としての仕組み（システム）」「無人でも止まらない工場」をデジタル技術やデータを駆使して実現しようと考えています。

「クラインDX戦略」は、デジタルと人のノウハウをつなぎ、業界の常識を打破し、新しい技術ややり方を創出することで、多品種少量でも究極に生産性を高める金属加工のビジネスモデルを構築することが目的です。今後の私たちの挑戦にご期待ください。

株式会社クライン

代表取締役社長 荒井信喜

経営理念

私たちクラインは、金属加工事業を通じ、あらゆる金属素材に「意味」と「名前」を与え、期待を超える「価値」を創出するために、その全活動において自己変革を重ね、質的に高い水準を目指して進化し続けます。

経営ビジョン

「最強のモノづくり企業※としての仕組み（システム）」を構築し、デジタルと人のノウハウを駆使することで、お客様に一步先を行く新しい価値を提供し、従業員には物心両面において豊かで幸せな生活を提供できる世界のハイテク産業を支えるエンジニアリング企業となります。

※最強のモノづくり企業とは、変化に素早く対応し進化できる組織のことです。この仕組みを構築し実践するためには、それを行う「人」「機械」「デジタル」の進化と連携が重要です。常に化する厳しく高いお客様のニーズに対して、クラインがどう対処するのかを常に考え学び、素早くフレキシブルに対応できる自己変革力をつけるためにDXに取り組みます。

当社は「最強のモノづくり企業としての仕組み（システム）」を構築し、世界のハイテク産業を支えるエンジニアリング企業になるという経営ビジョン及びビジネスモデルを実現するために以下のDX戦略を実践してまいります。

戦略①生産基盤の整備と自立型ものづくり現場の実現

現行の社内業務用システム（NSC）及び生産管理・製造プロセスを見直し、IoT、生成AIなどを導入し、リアルタイムでの生産状況把握、トレーサビリティ強化、業務の標準化・自動化を推進します。

（具体的施策：現行社内業務用システム（NSC）の維持管理体制の整備、生産管理システム再構築）

戦略②データ活用による生産性向上と現場力強化

これまで蓄積してきた保有データ（加工時間、原材料、不良率、段取り時間等）の分析を行い、更なるコスト削減、機械稼働率の向上、現場改善につなげます。

（具体的施策：AI活用による分析レポート作成、工場の自動化、省力化、労働環境の整備）

戦略③デジタル人材の育成と意識改革

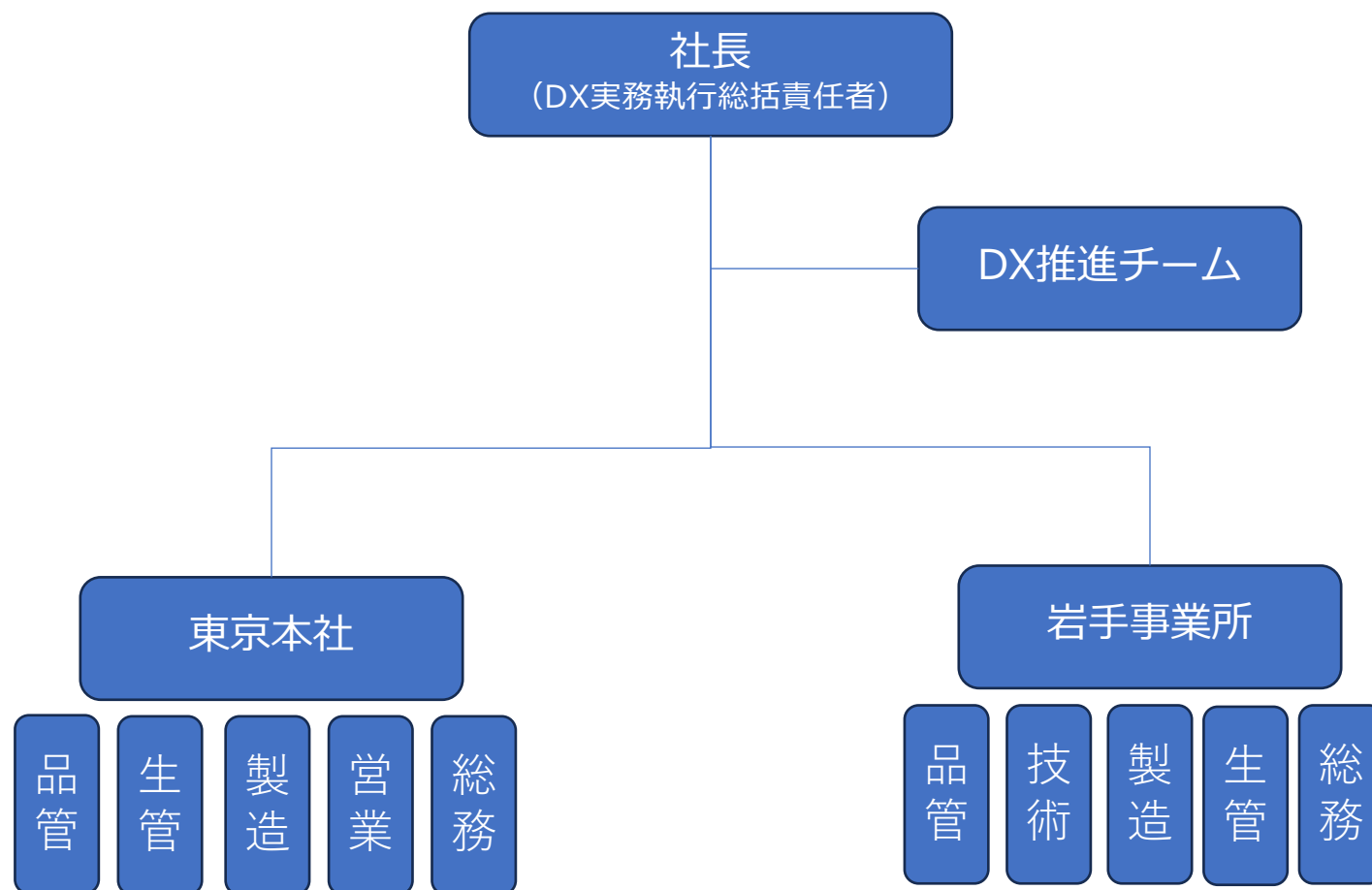
クラインDXを推進・定着させるために、現場とデジタルをつなぐ「自律的なデジタル人材」の育成をめざし、ベテラン技術者のノウハウ共有及び自由な発想を大切にしたデジタル人材を育成します。また、DX推進の重要性を浸透させるためにデジタルリテラシー教育を実施し意識改革に努めます。

（具体的施策：ベテラン技術者のノウハウの動画マニュアル化、デジタルリテラシー教育、デジタル推進人材育成、社内業務用ツール活用の推進）

DX推進体制



株式会社クラインは、社長（実務執行総括責任者）を中心として、DX推進チームを組織し、定期的にDX戦略の進捗を管理しながらDXを推進してまいります。また、必要なデジタル人材の育成もDX推進チームを中心に進めます。



株式会社クラインは、DX推進のために毎年売上の**3%**を投資します。これまで利用している既存システムを見直しながら、活用を促進していきます。また、新規システムの導入やネットワークを構築して、会社全体のDXを推進していきます。

区分	内容
既存システム	・ 社内業務用システム（NSC）
新規システム	・ 見積業務システム ・ 製造スケジュール管理システム ・ 製造の自動化、省人化のためのシステム ・ 生産管理システム

KPI（目標値）



DX戦略の達成状況を測る指標として下記を定めます。実行計画を立案したうえで、取り組みを行い、各部署ごとに目標値の達成状況を月に1度評価を行いながら目標達成できるようPDCAサイクルを回していきます。

戦略	取組内容	期限	目標値
戦略① 生産基盤の整備と自立型 ものづくり現場の実現	現行の社内業務用ツール（NSC）及び生産管理・製造プロセスを見直し、生産管理システムの再構築を推進する。	2028年度末までに	2026年末までに現行システム（NSC）を見直し及び維持管理体制を整備する。 2028年までに生産管理システムの再構築を完了する。
戦略② データ活用による生産性 向上と現場力強化	保有データの分析を行い、更なるコスト削減、機械稼働率の向上、現場改善につなげる。	2027年度末までに	保有データ活用の基盤構築及び生成AI等のツール導入を完了する。
戦略③ デジタル人材の育成と意 識改革	クラインDXを推進・定着させるために、現場とデジタルをつなぐ「自律的なデジタル人材」の育成	2028年度末までに	デジタル人材育成 10人 動画マニュアル作成 10件 リテラシー教育実施 3回 デジタル教育実施 3回

社長（実務執行総括責任者）メッセージ



はじめまして、株式会社クラインの荒井信喜です。弊社のDX戦略に興味をもっていただきありがとうございます。

私は、このDX戦略を立案するにあたり、「自由の大切さ」に想いを馳せました。

進学した地元の高校は服装も行動も勉強も自主自律が基本。何を着るか、何をするか、何を学ぶかは本人次第。結果は自分の考え方や日々の行動に起因することを体得し、自由は自分自身を創造する力であり、自由とは能力だと確信しました。

時を経て、現在、金属加工事業を営んでいます。職人の経験やノウハウに依存しがちな業界であり一般的にはデジタル化はあまり進んでいないのが現状です。しかし、クラインでは、社員一人ひとりが与えられた仕事に対して、業界の常識にとらわれずに、最新機器やデジタル技術も積極的に取り入れながら、自由な発想や行動によってもてる能力を発揮して、期待値を超えていてほしいと考えています。

今後、想像を超えた素晴らしい装置やデジタル技術、AI、ロボット等が出現するでしょう。

それを使いこなし、お客様や社会に対して新しい価値を創っていくためにはヒトの自由な発想がとても重要だと思います。デジタル技術を駆使し、自由な発想で、自由に行動することで、わがクラインの自己変革が加速するように「クラインDX」を推進してまいります。

- SECURITY ACTION 2 つ星宣言を実施
- DX推進指標 自己診断フォーマット（2025年5月提出済み）